

## 抄 録

## 結核専門雑誌

## Beiträge zur Klinik der Tuberkulose Bd. 91. H. 1. 1939.

限定セル一家系ニ於ケル結核死亡ノ繼承 A. Riffel  
氏業績ノ繼續

附 Hugenschmidt 氏法ニヨル年表式家系圖

Oswald Geißler: Der Erbgang der Tuberkulosehinfälligkeit in einer geschlossenen Sippe. Eine Fortsetzung der A. Riffelschen Arbeiten. Mit zeitmaßstäblichen Verwandtschaftstafeln nach Hugenschmidt. Alexander Riffel ハ 40 年前ニ Baden ノ一村落 Stuニ於テ詳細ナ家系ノ研究ヲ行ツタ。其ノ系圖ハ 18 世紀ニ溯上ツテ居テ確實ナ材料ニ基ク、二度ト得難イ貴重ナモノデアアルノミナラズ、殊ニ氏ガ當時行ハレタル肺癆遺傳説ヲ證明セント試ミタ點テ特別意義ガ多イ。著者ハ師デアアル A. Riffel ノ遺業ヲ繼續スベク 1932 年ヨリ研究ヲ始メ現在迄ノ系圖ヲ完成シタ。而シテコノ仕事ノ目的ハ現今ニ至ツテモ解決至難トセラル、結核素因ノ問題ノ研究ノ資料ヲ得ルニアツタ。各個人ニ於テ種々ノ科學的檢査ニヨツテ得タ答ヲ整理シテ、ソノ家系ノ關係ヲ正シク發見スル事ハ甚ダ困難デアアルガ著者ハ之レヲ Hugenschmidt ノ方法ニヨツテ表示シタ。之レヲ略記スルト、圖表ノ上カラ下ヘ 10 年宛ノ年代線ヲ水平ニ引ク。各個人ノ生命線ヲ下カラ上ヘ描イテ行ク。男ノ未婚期間ハ斜右ヘ、女ノ未婚者ハ斜左ヘ見ル、結婚スレバソノ時カラ男女ハ並行シテ垂直ニ年齢ヲ昇ツテ行ク。生命ノ長短ニ從ツテ線ハ止マリ、死ノ符號ヲツケル。子供ガ生レルトソノ點カラ線ヲ派生セシメル。離婚ノ場合ニハ垂直並行線ヨリ別レテ左右斜ニ走ル。内線關係ハ兩者ノ線ヲ僅カニ接觸サセタ後互ニ交叉シテ進ム。時間的關係ハ垂直線テ見ルコト、シ、水平ハ單ニ混亂ヲ避ケル目的テ充分ニ廣ク取ルノデアアル。圖中ニハ凡ユル記號ヲ用ヒ、發病經過ノ狀態ヲ示ス事ガ出來ルシ、之レニヨツテ誤謬ヲ殆ド無クスル事ガ出來ル。近年現ハレタ結核死亡率減少ノ原因ニ就テ、多クノ學

者ハ之レヲ自然淘汰ノ結果トシ、病氣ニ對スル抵抗ノ強イ血族ガ段々殘ツタ爲ダトノ見解ヲ持ツテ居ル。Aノ一族テハ結核發病及ビ死亡率ガ 1800 年代ノ前<sup>2</sup>/<sub>3</sub>ト後<sup>1</sup>/<sub>3</sub>即チ 1867 年ノ前後ニヨツテ特ニ著明ナ差違ヲ示シ後年ハ減少ガ著シイ。シカシ結核症ハ人種遺傳學的意味テ淘汰ノ原因トナル事實ハ認メラレルガ詳細ニ見ルト自然淘汰ハ左程廣汎ナ作用ヲ及ボスモノデハ無ク、之レニ比ベルト結核死亡ノ減少ニハ、結核血族ト素因ナキ健康血族トノ混交ガ大ナル意義ヲ持ツモノト思ハレル。

系圖ヲ檢査スルト。Aナル家族ノ子孫ハ多數ノ家系ニ分岐シテ居ルガ、ソノ或ルモノハ 18 世紀ヨリ 1935 年ニ到ル間全無結核テ過ギテ居リ、之レニ反シテ他ノ家系デハ同ジ年代ノ間 5 代ヲ重ネテソノ間結核死亡ガ連鎖ヲナシテ存在スル。コノ兩極端ノ間ニアツテ各家系ハ強弱トリドリノ結核死亡率ヲ示シテ居ルガ概シテ近代デハ著シク減少シテ居ル。感染ノ機會ハ各家系ニ平均ニアツタ筈デ、殊ニ或ル場合ニハ濃厚感染ヲモ受ケタデアラウト考ヘラレルニ拘ハラズ、或ル家系ハ全々無結核デアアル一面ニハ不斷ニ結核發病ヲ見ル家系ガ有ルト云フ事實ハ、ソコニ遺傳ト云フモノガ有力ナ意味ヲモツ事ヲ立證スルモノト云ヘル。尙更ニソノ事實ヲ列記スルト、

1. 夫婦ノ一方ガ結核テ死亡シタモノ、子供ニ於テハ、結核死亡 24.5%、同罹病 6%、健康 69.4%テ即チ死亡率 25%ヲ示シテ居ル。コノ數字ガ遺傳性疾患ニ定型的ナ比率デアアル點ヨリシテ、既ニ其所ニ Mendel 氏現象ガ想起サレルガ、尙コノ判定ノ誤リテ無イ事ハ兩親ノ雙方カラ素因ヲ受繼イダ子デモ Mendel ノ法則ノ示ス通りニ凡ソ 60%ノ死亡ガアルノデアアル。
2. 結核死亡者ノ孫テ親ハ結核病テナカッタ者テハ 14.29%結核テ死亡シ、85.71%ハ健康デアツタ、又祖父母ノミナラズ親ノ一方ガ結核テ死亡セル者ニ於テ

ハ 40%ハ結核死亡、4.54%ハ罹病若クハソノ疑ガアツタ。

以上ハ 18 世紀間ノ觀察デアアルガ、近年ノモノハ結核死亡者ノ孫テモ親カラ新タニ素因ヅケラレナイモノハ結核ニ罹ツテ居ナイ、親ノ一方ガ結核死亡ノ場合ハ 13.4%ハ罹病シテ居ル。

3. 健康ナ兩親ヲ持ツ結核死亡者ノ兄弟ノ結核死亡率ハ 20—44.4%平均 32.35%デアアル。尙コソ兄弟ノ兩親中一方ガ結核死亡者デアアル場合ハ 35%トナル。

4. 結核死亡者ノ甥姪ハ平均 27%ガ結核ヲ死亡シテ居ル、内兩親ノ一方又ハ雙方ガ結核デアツタモノハ 15.14%、兩親ガ健全デアツタモノデハ 11.4%デアアル。近年ハ著シク低率トナツテ居ルガ全年代ヲ通ジテ見

ルト親ガ結核テ無カツタモノ、結核死亡率ハ 4.22%トナル。

最近迄、結核症ハ流行性傳染病デアツテ人類ハ盡ク之レニ對シテ均等ナ罹患性ヲ持つテ居リ、發病スルヤ否ヤハ唯感染狀態ト結核菌ノ量及ビ毒力ノ差ニヨルト説ク者(Bräuning, Redeker)ニ對シ一方遺傳説ニ從ツテ遺傳素因ヲ重視スルモノトノ二學説ノ對立ガアル。著者ハコソ研究ノ始メニハソノ何レカニ單一ナル歸著點ガ得ラレル様ニ考ヘテ居タガ、現ハレタ事實ハ之レニ反スルモノガアリ、研究ヲ綜合スルト前述ノ兩説共ニ正シイ事ガ可成リ明カニナツテ眞ハ中道ニアル事ガ勞セズシテ觀取セラル、ニ至ツタ。

(東京市療 柴田抄)

## Beiträge zur Klinik der Tuberkulose Bd. 91. H. 3. 1938.

### 肺門淋巴腺結核ニヨル無氣肺

Müller, Reiner W.: Atelektasen bei Hilusdrüsen-tuberkulose.

「レントゲン」所見ニ於テ、肺浸潤ニ似タ均質ナ陰影ヲ呈スルモノ、中ニ、經過ヲ觀察シテキルト、肺門部ノ淋巴腺結核ニヨツテ無氣肺ノ状態ヲ呈シテキルモノト認メラレル場合ガアル。(東京市療 矢部抄)

### 先天性心臟瓣膜障ト同時兩側氣胸

H. Hillesheim: Angeborener Herzfehler und gleichzeitiger doppelseitiger Pneumothorax.

17 歳ノ女子ニシテ、先天性心臟瓣膜障ヲ有シ、左上部ニ空洞、右中部ニ増殖性病變ヲ有スル肺結核患者一、同時ニ兩側氣胸ヲ行ヒ、心臟ニハ影響ナク、肺結核ハ良好ナ經過ヲ示シタ。(東京市療 矢部抄)

### 持續性及ビ再發性特發氣胸

L. Rickmann.: „Persistierender“ und „rezidivierender“ Spontanpneumothorax.

特發性氣胸ノ存在ヲ本人ガ全ク氣附カズ、既ニ恐ラク年餘ヲ經過シタモノト思ハレ、更ニソノ儘何等ノ障ノナク十數年ヲ經過シ、コソ間無事ニ出産ヲ行ツテキル例ヲ報告シテキル。(東京市療 矢部抄)

### 結核ノ消長ト時

Theodor Zivanovic: Zeit in der Tuberkulose.

結核ニ對スル抵抗力ハ、個人ニヨリ、生活條件ニヨリ、民族ニヨリ又時代ニヨツテ異ル。(東京市療 矢部抄)  
Schilling ノ血液像ト赤沈値トニ比較對照シタル肺結核患者ノ血液像中ノ單核細胞ト淋巴球トノ關係指數

### ノ診斷價値ニ就テ

Ruth Vortisch: Das Monocyten-Lymphocyten-Verhältnis bei Tuberkulose mit besonderer Berücksichtigung seiner Berwertbarkeit im Vergleich zu dem Schillingschen Blaubild und zur Blutsenkungsprobe.

123 例ノ肺結核患者ニ就テ、血液像ヲ検査シ、單核細胞ト淋巴球トノ關係指數ト、左方遷移ト、赤沈値ト、臨牀所見トガ一致スル事ヲ述ベテキル。

(東京市療 矢部抄)

### 結核ノ金療法ニ於ケル實驗的寄與

動物實驗ニ於テ血清中ノ「オプソニン」量ニ及ボス金療法ノ影響ニ就テ

St. J. Leitner: Experimentelle Beiträge zur Goldbehandlung der Tuberkulose. II. Mitteilung. Die Wirkung der Goldbehandlung auf den Opsoningehalt des Serums in Tierversuch.

「モルモット」及ビ兎ノ實驗結核ニ對シ、金製劑ニヨリ治療ヲ行ヘルニ、血清中ノ「オプソニン」指數ヲ増加シ得タリ。(東京市療 矢部抄)

### 晩期結核初感染ノ一例

A. Wernli-Haessig: Ein Fall von später tuberkulöser Erstinfektion.

11 歳ノ小兒、「ツベルクリン」反應陰性後 2 ヶ月ニテ發熱、數ケ月ヲ經過シテ解熱セズ、慢性盲腸炎ト診斷セラレタルニ、「ツベルクリン」反應陽性トナリ、「レントゲン」検査ニヨリ肺門淋巴腺結核ナルコトヲ認メタリ。(東京市療 矢部抄)

## Beiträge zur Klinik der Tuberkulose Bd. 91. H. 4. 1939

### 1. 肺結核症ノ精神的症候

G. Kloos u. E. Näser: Die psychische Symptomatik der Lungentuberkulose.

肺結核症ノ各病期ニ於ケル精神的症候ヲ説明シ、之ヲ綜説風ニ述ベテキル。

即チ結論ニ於テ肺結核症ノ診断治療上一般ニ其精神的症候ヲ閑却シテ居ルコトヲ遺憾トシテ居ル。

而シテ結核症經過ヲ前期ト初期發病的ト慢性期トニ分ケテ夫々ニツイテ説明シテ居ル。

前期即ち潜伏期トシテ小兒期一般ニ初感染ガアツテ多クハ治愈ニ向フガ中ニ完全ニ治愈セズシテ居ル間ヲアケテ居ル、此間ニ著明ナ精神症狀ヲ呈スル、「レントゲン」検査ニモ不明デアツテ、醫師ハ之ヲ神經衰弱症ト診断シテ居ル、之ハ Ranke ノ第Ⅱ期ニ屬スルモノト云ツテ居ル、此時期ノ症候トシテハ全身倦怠感、精神的疲勞感、精神的緊張度ノ消耗、智的發生力ノ減退等ガアゲラレテ居ル、然ルニ又意志力ノ減退、感受性ノ高調、又之ニ伴フ刺戟的減弱、其結果トシテ氣分變換ガ著シト云ツテ居ル。是等ノ結果統計的ニ見テ自殺ノ傾向ガ多イ。次ニ初期結核症ノ精神症候ハ之ヲ中毒症候、精神反響の症候、環境支配ニ依ル症候ニ分類シテ説明シテ居ルガ結局ニ於テ此時期トシテ特筆スベキ著明ナ精神症狀ト云フモノハ存セズ各個人的差異症狀ノ差異等ニ依リ夫々異ツテ居テ様々ノ症候ヲ呈スルト云フ、唯中毒症候トシテハ以上前驅期症候トシテ舉ゲタ症候ガ著シク高調サレルト云フコトヲケテアル。

慢性疾患ノ場合モ大體ト大同小異ニ述ベテ居ル。又結核性性格ト云フモノモ、特ニ存在スルトハ思ハレスト云ツテ居ル。然シ種々ノ精神症狀ガ結核症ト關聯シテ原因トナリ結果トナツテ惡化セシムルガ故ニ、是等ニ對シテ充分ノ注意ガ必要ト云ツテ居ル。

(東京市療 太田抄)

### 2. 「アスコルビン」酸(「ヴィタミン」C)ニ依ル肺結核治療

Herbert Prautwein: Die Ascorbinsäure (Vitamin C) in der Behandlung der L. Tuberkulose.

「ヴィタミン」Cノ生體ニ於ケル意義ハ今日未ダ全ク明瞭ニナツテ居ラメカ、恐ラクハ其可逆的還元性が細胞ノ脱水作用ニ中間引受者トシテ作用スルト思ハレル、

即チ毛細血管ノ内皮層又ハ骨髓等ニ作用シテ色素代謝ニ役立つ様ナモノデアルト云フ。

夫レ故ニ慢性疾患ニ於テハ體力消耗ヲ防クニ役立つ、又出血等ニ際シテハ毛細管ニ Thromulin ノ増加ヲ來サシメテ凝固ヲ早メル、又其他ノ代謝ヲ助ケル、例ハバ肝臓ノ「グリコーゲン」破壊ヲ阻止シ、生體ノ「グリコーゲン」欠亡ニ對シテハ「グリコーゲン」製成ヲ助ケル様ナモノデアル、血糖検査ニ於テハ食餌攝取後ノ上昇ガ正常値ニ比シテ「ヴィタミン」C 投與ノモノハズツト低クナル。

著者ハⅡ期ノ結核症患者 31 例ニ靜脈内注射ニ依リ 4 例ハ内服ニ使用シテ血糖尿糖検査ヲ行ツタ。

而シテ血糖値一尿糖値ノ差及其差ガ血糖値ニ對スル%ヲ算出シテ之ヲ炎症度ト定メテ居ル、其結果血糖尿糖試験ニ於テハ對照患者ニ比シテ著シク良好ナ成績ヲ示シタト、又全身狀態、體重、體温、血球像亦沈等モ大體ニ於テ良好デアツタト報告シテ居ル。

(東京市療 太田抄)

### 3. 内臟轉位症ニ於ケル氣管枝擴張症

K. Glau: Die Bronchektasie bei Situs Viceerun inversus totalis.

氣管枝擴張症ガ生來ノ先天的ノモノカ後天的ノモノカト云フ議論ハ今日決定セラレナイ。

著者ハ 17 歳ノ少女ノ内臟轉位症ノ剖検例カラ、之ガ氣管枝擴張症ヲ呈シテ居リ、慢性鼻及楔骨窩ノ増殖性炎症ヲ有シテ居ツタ、又殊ニ前額竇ガ全ク閉塞サレテ居ツタ。

而シテ此氣管枝擴張症ハ明ラク先天性ナルコトヲ確カメ得タト報告シテ居ル。(東京市療 太田抄)

### 4. 結核症ニ於ケル漿液性炎症

Alfred Deisz: Die seröse Entzündung in der Tuberkulose.

漿液性炎症ニ對スル學說ハ人體病理學ト細胞病理學トノ見解ヲツナク橋トシテノ基礎トナツタ。

之ヲ結核症ニ就テ殊ニ疾患ノ經過ヲ臨牀的ニ觀察シテ漿液性炎症ニ就テ考ヘテ見ルト云ヒ 3 例ノ結核患者ノ經過ヲ説明シテ記述シタ。

即結核ノ肺組織ノ狀態トハ全ク無關係ニ血行性結核症ノ場合ニ其初メニ肋膜ガ漿液性臟器トシテ特異性毒性刺戟ニ對スル響鳴トシテ漿液性炎症ヲ發ルコ

トガアル、故ニ全急性滲出性肋膜炎ノ19%ハ汎發性播種期又ハ「アレルギー」期ニ成立スルヲ見ル、即「アレルギー」期トハ即漿液期ニ對スル「グキルス Virus」ノ特異性親和性カラ汎發性播種ガオコルト考ヘル。ソコテス様ナ現象ヲ起ス臟器素因トシテハ之トハナレタ肺外病竈ガ意義ガアル、即見カケハ全ク關係ノナイ潜在性結核ノ場合毒性「アレルギー」性遠隔疾患ガ發生スル、コノ場合ニ漿液性炎症ガ起ルノテアル。之ガ治療トシテハ安靜ヲ保タシメルカ、又ハ少イ刺激ニヨリ炎症ニ對スル自然抵抗カラ強メル必要ガアルト。(東京市療 太田抄)

### 5. 氣腹術ノ施行ニ就テノ補遺

一般ニ氣腹術ハ腸結核症ノ時800—1200ccノ空氣ヲ1—2週間ニ入レテ下痢其他ニ良結果ヲ示スガ其他氣管枝喘息ノ時モ用フル。

其他ニ又腹腔内壓ノ急速ナ減退ノ時、又ハ共ニ、肺結核ノ惡化ヘノ豫防トシテモ用ヒラルト云フ。

(東京市療 太田抄)

### 6. 「ラノリン」又ハ「ワセリン」中ニ埋入セル死結核菌ヲ以テセル「アレルギー」状態ニ依ル結核特殊豫防

G. Hensel: Spezifischer Tuberkuloseschutz durch Allergieierung Mit abgetöteten in Lanolin od. Vaseline eingebetteten Tuberkulosebakterien. Ein Beitrag zur problem der Tuberkulose schutzimpfung.

2時間65°Cニテ殺シタ結核菌ヲ「ラノリン」ニ埋藏シテ之ヲ0.005gヲ1ccmニシテ11例「モルモット」ニ皮内注射シ10—13ヶ月後「ツベルクリン」反應ヲ見ルニ皆中等度又ハ強陽性ヲ呈シタ、之ニ $\frac{1}{100000}$ mg. 0.1ccノ4週間培養ノ生菌ヲ注射シタガ3ヶ月後剖檢、皆淋巴腺及脾臟ニ變化ヲ見ナイ。

「ワセリン」埋藏ノモノハ同様「ツベルクリン」陽性ニナツタガ1例ダケ生菌注射後結核病變ヲ呈シ、1例ハ肺炎ニテ死亡シタガ、其他ノ例ハ皆「ラノリン」ノモノト同様デアツタ、對照例ハ皆著シイ病變ヲ呈シタ。

(東京市療 太田抄)

### 7. 外科的結核症治療ニ於ケル電氣外科療法ノ治療例

Ernst Wegemer: Erfahrung der Elektrochirurgie bei Behandlung der chirurgische Tuberkulose.

著者ハ Elektrochirurgie トシテ「ティアテルミー」ノ裝置カラ高熱電氣ヲオコシ、之ニ依ツテ組織ヲ細胞蛋

白質ノ凝固ヲオコサシメテ治療スル方法ヲ用ヒテ觀血外科ノ代用トシタノテアル。之ニ對スル注意トシテ高イ電力ノ爲ニ火傷ヲ起サセナイ様ニ、又電導子ハ入電面トナル可ク大ニシテ電導子面ガ身體ニ密接ニツク様ニスル。

疼痛激シキ爲完全ナ麻醉が必要デアル、殊ニ局部ニハ完全ニスル。

然シ「エーテル」、「クロールエチル」麻醉ハ用ヒテハナラス、爆發ノ危險ガアル。

多クノ學者ハ「アベルチン」麻醉ヲ用ヒルガ吾人ハ「エヴィパン」Evipan 靜脈注射ヲ行フ、1g 10cc蒸水ニ溶ス、最初2—3ccヲ速カー入レ、後ニ1 $\frac{1}{2}$ 分ニ1ccmノ速度ヲ注入餘リ大キナ患者ニハ10cc全部ヲ注入シテ差支ナシ。

又、肝臟、腎臟ノ「アミロイセ」變性アルモノハ前モツテ注意スル、檢尿必要。

著者ハ3例ノ頸部淋巴腺ノ慢性ニテ度々ノ手術ニ治療セルモノ、2例ノ泌尿器、性殖器結核、6例ノ骨及ヒ關節結核ノ例ヲ手術シテ治療シタト報告シテ居ル。

(東京市療 太田抄)

### 8. 統計的取扱ニ依ル痕瘡問題

Konrad Waldecker, Lupusfragen an Hand von statistischen Erhebung.

著者ハ主トシテ Breslan ノ Klinick ニ於テ1920—1937年ノ間ニ集メタ640例ノ痕瘡ノ患者ヲ種々ノ統計的取扱ニ依ツテ觀察シタモノデアル。

此640例ノ痕瘡患者ノ出生ノ地理的關係ハ609例ガSchlesienニテ而モ其大部分ハNieder Schlesienニテ67.2%ニナル、僅カ4.8%ダケカ他ノ地方カラ來タモノデアル。

又、之ヲ都市ト田舎ニ分ケルト、

大都市(人口10萬以上)20%、中都市20%、小都市10.8%、田舎48.4%ニ及ンデキル、殊ニ勞働階級層ニ多イコトヲ知ル。

發生年齡ニ就テハ幼時カラ60歳迄ニナツテ居リ之ヲ表ニシテ大體小兒ニ多イガ老年者ヲモ發生スル者ガ少數ハアル。

結核の遺傳關係テハ21.4%ガ家庭ニ結核ガ存在スル他ニ痕瘡ノ遺傳ヲ見ルト4.2%ニ家庭ノ痕瘡患者ガアル、發生スル局部ハ顔面ガ著シク多ク、410例其他ノ四肢ハ205例デアル。顔面中、頬306、次ハ鼻外面、耳殼、額、眉、眼瞼、唇、頸部下顎部等デアル。

又臓器結核トノ關係ハ「レントゲン」検査テ肺ニ病影ノアツタモノ 22.4%ガアツタ。

豫後ハ 640 例中 36.9%ガ 4 年ノ間ニ治癒シタ、又、將來ノ生命危険ヲ見ルニ 640 例中 5.6%ガ死亡シタ、之ハ肺炎 2、腦溢血 4、心臟病 3、結核 12、肺臓癌 3、胃癌 4、乳癌 1 等デアアル。(東京市療 太田抄)

#### 9. 肋膜外肺臓剝離手術ニ依ル肺結核治療

Th. Rehberg: Zur Behandlung der Lungentuberkulose mit extraplenraler Pneumolyse.

Stadttheide ノ病院ニ於テ 1 年間ニ 50 例ノ肺臓剝離手術ヲ行ツタ。中 7 例ハ前處置トシテ大キナ成形手術ヲ行ツタ、後原發竈ガ尙充分ニ固定セズ他側ニ新病竈ガアル故ニ行ツタ。其他ノ 43 例ハ皆最初カラ剝離術ノミヲ行フ、術式ハ Graf ト Schmidt 氏法ヲ施行シタ、方法及ビ麻醉方法等ニ就テ記載シテ居ル、之ニ手術腔ニハ 2—4%「Gomenolöl」、又ハ 20%「Jodopinöl」ヲ注入シテ居ル、而シテ 1 例ガ死亡シタ、Kranspe 氏ニ依リ剖檢シテ之ヲ報告シテキル。(東京市療 太田抄)

## 結核外専門雜誌

### 實驗的結核ノ經過ニ及ボス炎症性滲出液ノ影響

W. Howard Hughes: The effect of inflammatory exsudates on the course of experimental tuberculosis (The Journal of Pathology and Bacteriology, Vol. XLVIII, No. 3, p. 605, 1939.)

炎症性滲出液ニハ、濾出液ト違ツテ、正常白血球ノ殺菌力ヲ減殺シ、且ツ病原性球菌ニ對スル實驗動物ノ抵抗力ヲモ低下セシメル物質ガ含マレテ居ルト云フコトハ著者ガ既ニ實驗的ニ證明シタトコロデアアルガ、今回ハ斯ル抵抗力ノ低下ガ非特異的現象デアアルカドウカラ追求スル目的ノタメニ以下ノ如キ實驗ヲ行ツタ。體重 250 瓦内外ノ海猿ヲ 6 頭宛 2 群ニ分チ、ソノ 1 群ニハ結核菌ト滲出液トヲ、他群ニハ對照トシテ結核菌ト濾出液トヲソレゾレ腹腔内ニ注射シ、各試獸ノ生存日數ヲ檢シタ。因ニ是等ノ注射ハ次ノ如クニ行ハレタモノデアアル。即チ、2—3 耗ノ結核性喀痰ヲ 4% NaOH 中ニ浮游サセ孵卵器ニ收メテ液化サセ之ヲ遠心沈澱シ沈澱ヲ 3 回生理的食鹽水テ洗ヒ鹽酸ヲ中和シタ後鏡下ニ於テ 3 視野ニ 1 個ノ結核菌體ガ認メラレル程度ニ迄稀釋シ斯ルモノ、1 耗ヲ火傷水泡液 5 耗及ビ陰囊水腫液 5 耗ニソレゾレ混ジ、ソノ各 1 耗宛ヲ 6 頭宛ノ海猿ノ腹腔内ニ注射シタノデアアル。

以上ノ實驗ヨリ次ノ如キ成績ヲ得タ。即チ、滲出液ト混ジテ結核菌ヲ注射シタ試獸群ノ平均生存日數ハ漸ク 39 日間テ之ヲ對照群即チ濾出液ニ混ジテ結核菌ヲ注射シタ群ノソレガ 71 日デアツタノニ比スルト大約  $\frac{1}{2}$ ニシカ過ギナカツタシ、尙ソノ病理解剖學的竝ニ病理組織學的の所見ニ於テモ對照群ノソレニ比シテ病變ガヨリ進行的デアリヨリ強ク犯サレ、且ツヨリ多クノ

結核菌ガ存在スルコトヲ示シテ居タ。

著者ハ總括トシテ、以上ノ實驗ヲ以テ、炎症性滲出液中ニ結核菌ト俱ニ動物ニ注射サレルト、ソノ結核死ヲ促進セシメルトコロノ或物質ガ存在シテ居ルコトヲ示スモノデアアルト結ンデ居ル。(九大細菌 占部薫抄)

### 結核牛ニ於ケル人型牛型兩結核菌ノ同時出現ニ就テ

Eduard Gröh: Über das gleichzeitige Vorkommen von humanen und bovinen Bacillen beider Tuberkulose der Rinder. (Zschr. f. Hygiene und Inf. Krh., 122 Bd. Nr. 1, S. 62, 1939.)

25 頭ノ結核牛ノ臓器ヨリ 2.5%「グリセリン・アスパラギン」卵培地上培養ニヨツテ 25 株ノ結核菌ヲ得タガ是等ヲ一定ノ手技ノ下ニ稀薄浮游液トシテ平板培養スルコトニヨリ全株例外ナシニ多數ノ牛型菌ト同時ニ少數ノ人型菌ガ存在シテ居ルコトヲ認メタ。

(抄者註: 斯ル培養菌ノ菌型鑑別ハ單個菌ノ發育様式ニヨリ顯微鏡的ニ可能デアルト謂フ Gröh, E.: Zbl. Bakter., I Abt. Orig. 128 Bd. 1933.)

斯ク混在スル兩型菌ノ分離ヲ稀釋累代培養法ニヨツテ企テタ結果、固形、液體兩培地上執レニ於テモ成功シタガ、液體培地ニヨレバ固形培地ヲ用ヒタ場合ニ比シテヨリ迅速ニ而モヨリ容易ニソノ目的ガ達セラレルコトヲ知ツタ。尙供試菌ノ發育經過ヲ觀察スルコトニヨリ菌型ノ變轉ハ起ルモノテナク各型ハ共ニソノ各々ノ發育様式ヲ維持シ續ケルモノデアアルコトヲモ證明シ得タ。

更ニ兩型菌混在ノ量的相對關係ニ從ツテ兩者ノ發育速度ガ次ノ様ナ影響ヲ蒙ルコトヲモ知ツタ。即チ、牛

型菌が多分ニ存在スルト其處ニ同時ニ存在スル人型菌ハソノ發育ヲ抑制セラレ、恰モ殆ド牛型菌ノミノ場合ト全ク同ジク劣勢發育ヲ營ム様ニナリ、人型菌ガ全體的ニ視レバ、尙少數デアアルガ多少デモ多ク存在スル場合ニハ同時ニ存在スル牛型菌ハ寧ロ優勢發育ヲ行フ様ニナリ同時ニ人型菌ノ發育速度モ亦促進サレル。但シ此ノ際ノ人型菌ノ發育速度ハ促進サレルトハ云ツテモ尙且ツ牛型菌ノソレニハ及バナイノデアアル。人牛兩型菌ガ略々同數存在シタ場合ニハ兩者共ニ優勢發育ヲ營ミ、而モ此ノ際ニハ人型菌ノ發育ガ牛型菌ノソレヲ凌駕スル。牛型菌數ガ人型菌數ヨリモ遙カニ少數デアアル場合ニハ後者ノ發育ハ遅レハスルガ、尙常ニ前者ノソレヨリハ速カタアル。(九大細菌 占部抄)

#### 臨牀上稀有ナル症例

Von Vet-Rat i. R. Dr. V. Oelkers: Seltenerer Fälle aus der Praxis. (Berlin. u. Münch. Tierarzth Wschr. 1939. Nr. 22.)

##### 1) 腦結核(Gehirntuberkulose)

牛ノ腦結核ハ稀ナルモノトサレ Weber ノ著書中ニモ、牛ノ腦疾患ナル部ニ附加的ニ記載セルノミ。著者ハ 30 年間ノ臨牀經驗中牛ノ腦疾患ノ大半ハ腦結核ガ占ムルヲ確信ス。著者ハ 10 例ノ腦結核ヲ臨牀的及ビ病理解剖的ニ觀察ス。初期ニ於テハ總テノ場合多少ニ拘ラズ牛ハ頸部強直アリ(80%)、又一側ニ頸ヲ傾ケルモノアリ(20%)、食慾モ次第ニ失ハレ、無感覺トナリ昏睡ニ入ル、發熱ハ常ニ缺ク。食餌、搾乳、敷糞ノ際一時性ノ興奮状態トナルコトアリ。發病セル動物ヲ他ニ輸送スルコトハ困難ニシテ屢々狂暴ナル發作ヲ來ス。病理解剖變化トシテ、大腦ノ後葉及ビ之ガ後下方中腦ニ帽針頭大又ハ米粒大ノ灰白黃色結節ヲ軟腦膜上ニ見ル、同様ナル結節ヲ肺ニモ證明ス。狂暴ナル發作ヲ來スモノハ出血性腦膜炎ヲ併發ス。頭ヲ一側ニ傾

ケル場合ハ大腦ノ後葉ニ變化ガアリ頸部強直アルモノハ兩側ノ後葉ガ侵サル。

##### 2) 喉頭結核(Kehlkopftuberkulose)

之モ亦非常ニ珍ラシキモノニシテ、動物所有者ハ先ヅ頸部ノ疼痛性ノ伸展ト咳嗽發作ヲ認ム。此ノ時咽後膿瘍ニ見ル如キ食餌性呼吸困難ハナシ。結核性變化ニ依ル聲帶破壞ノ爲ニ無聲トナル、解剖スルニ聲帶ハ不正形花瓣狀ノ潰瘍ヲ作り軟骨ハ腫脹セリ。他ニハ肺ニ結核病竈ヲ認ム。(北研 野中抄)

##### 鷄ノ結核

Von Dr. Karl Fritzsche: Tuberkulose beim „Emu“. (Berlin. u. Münch. Tierärztl. Wschr. 1939. Nr. 23.)

1937 年春 Breslau ノ動物園ニテ自然ニ又一部ハ人工的ニ 3 羽ノ Emu ノ雛ヲ孵化シタ。7 月末ニハ成鳥ノ  $\frac{3}{4}$  大ニ成育シタ、此ノ雛ヲ親鷄ヨリ離シテヨリ 2—3 週後元氣ナク眼瞼ノ腫脹ト結膜ノ潤濁ヲ認メタ。下眼腔ニハ白色凝乳狀ノ浸出液アリ。口腔ハ隆起シ灰白色ノ舌苔アリ食餌量ハ不定、羽毛ハ逆立ツ。3 羽共同様ナル變化ヲ來シタ。

著者ハ之ヲ「ビタミン」缺乏症ト考ヘ綠草肝油等ヲ與ヘ硼酸水ヲ洗眼シタ。2 週間之ヲ治療スルモ尙治癒セズ寧ロ増悪スルニヨリ殺シテ剖見ス。全臟器ニ結核性變化ヲ認ム。氣管枝粘膜炎、肺、腸壁、肝、脾等ニ豌豆大ノ圓形病竈アリ一部ハ乾酪化シ、之ヲ檢スルニ多數ノ結核菌ヲ認ム。口腔、眼瞼ニモ結核變化アリ、此ノ材料ヲ海狸ニ接種スルニ 4 週ニシテ接種部ニ胡桃大ノ膿瘍ヲ生ジ菌ヲ證明ス。培養スルト典型的ノ鳥型結核菌ヲ得タ。他ノ 2 羽ヲ解剖セルニ、同様ナル變化ヲ發見ス。傳染經路ヲ發見スベク親鷄ヲ檢査セルモ之レヲ認メズ全ク不明ナリ。

Emu ノ 3 羽共同時ニ侵サレタルモ珍ラシク又大部分粘膜炎ニ來レルモ稀ナルモノトス。(北研 野中抄)

## 會報 並 = 雜報

### 11 月中新入會者

早田 工 滿洲國四平街 滿鐵醫院内科  
岩手醫學專門學校小兒科教室 盛岡市内丸

菅野和夫 大連市山吹町 日本赤十字社大連支部病院

春原新太郎 東京市本郷區駒込坂下町一二六